



ため池一斉点検における簡易氾濫解析からハザードマップ作成までについて紹介します

(1/2)

今回紹介する団体：水土里ネット岡山、県内3県民局、20市町

取組概要

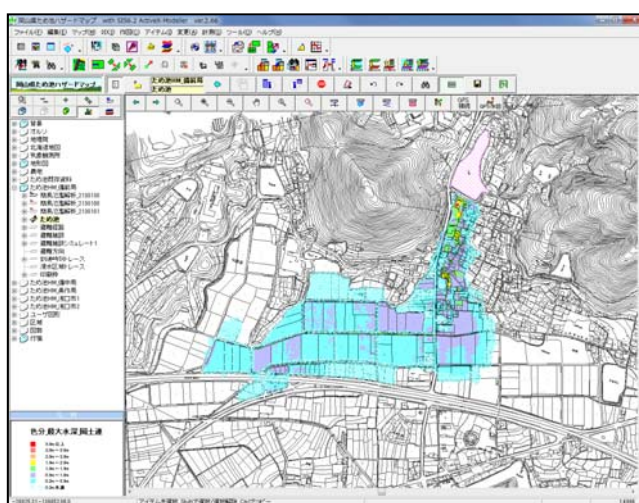
内容：

ため池一斉点検での活用

- ・調査用位置図の作成
- ・流域の作図、計測
- ・標高編集（必要に応じて）
- ・簡易氾濫解析結果の取り込み
- ・下流域の影響カウント（家屋や農地）
- ・解析結果図面の作成

（平成25～26年度で約2,800箇所）

（解析結果を水土里情報に重ねた状態）



経緯：

平成24年度、ため池DBハザードマップVer.3（農村工学研究所）を導入した。このソフトで簡易氾濫解析した結果は一般的なGISで利用可能なShape形式であることから、これを水土里情報システム（岡山県では水土里Maps）に重ね、下流の影響把握やハザードマップ作成に利用しようと考えた。

- ① 破堤点（決壊位置）が指定できること
- ② 国土地理院5mメッシュ標高に対応すること
- ③ GISで編集した標高データが取り込みできること

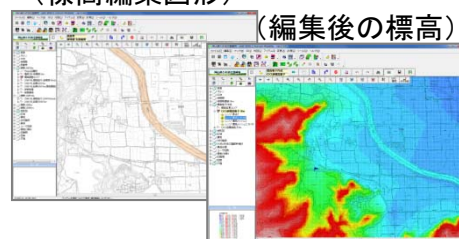
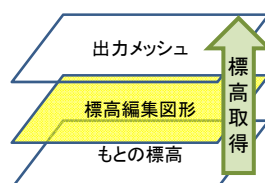
という要望をし、③について水土里Mapsにおける検証及び手順の整理を行った。

（標高編集図形）

平成25年度、上記①②③に加え

- ④ 粗度係数の設定
- ⑤ 最大流量の設定
- ⑥ Google Earth形式（KML）での出力

が可能となったVer.4がリリースされ、水土里情報と組み合わせることによりため池一斉点検やハザードマップに利用している。



期待される効果

ため池一斉点検で広域的に簡易氾濫解析を行ったため、

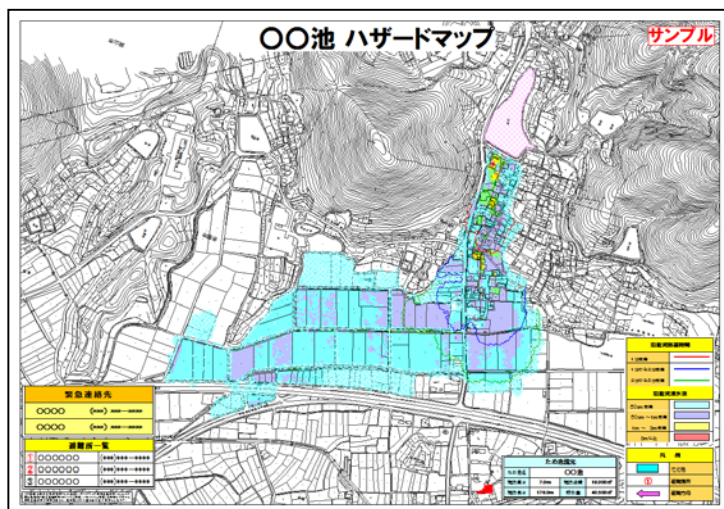
- ・下流の影響度はどの程度か
- ・関係する集落はどこまでか

など、市町村の担当者がどのため池からハザードマップを作成すべきか選定する際の有効な材料となった。

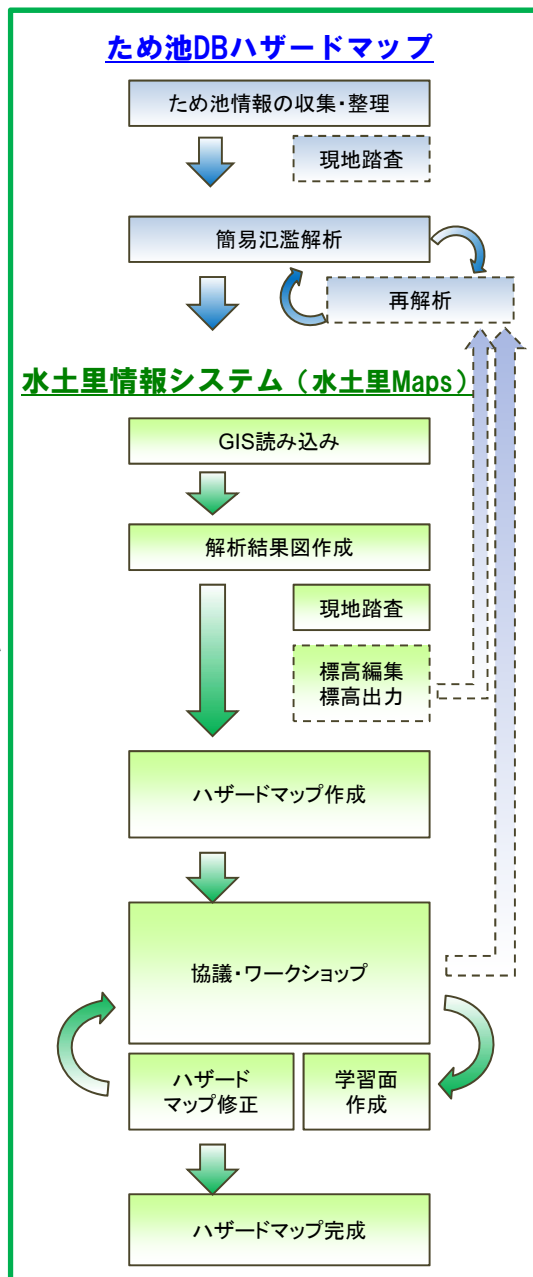
平成25年度、県内3箇所モデル地区を設定し試験的にハザードマップ作成を行い、岡山県における標準的な作業工程(右図)や雛形(下図)を作成した。

これをもとに平成25年度は1市でハザードマップを作成し、平成26年度は3市町～5市町で作成を行う予定。

(ハザードマップサンプル)



(標準的な作業工程)



今後の活用予定

複数箇所の決壊を重ねる場合や、複数ため池の決壊を重ねる場合の表現方法を詰め、「地区」「集落」単位のハザードマップを作成する。

■お問い合わせ先

岡山県土地改良事業団体連合会 総務部水土里情報課 086-225-0921 (代表)

農林水産省農村振興局整備部設計課計画調整室(細川、溝添) 03-6744-2212(直通)